香川県人事委員会、月例給・期末勤勉手当引き上げ勧告

二年連続の引き上げ勧告は二十四年ぶり

一〇月八日、香川県人事委員会において、桑城秀樹・香川県人事委員会委員長より、平成二十七職員の給与等に関する報告と勧告の概要説明を受けた。（一部抜粋）

給与について

給与改訂では、民間給与との較差（〇・三三%）を埋めるため、給料表の水準及び地域手当の支給割合（一%→二・二%）に引き上げる。また、期末・勤勉手当については〇・一%引き上げる。給与制度の総合的見直しについては平成二十八年度において地域手当の支給割合の引き上げ（二・六%）、単身赴任手当の支給額の改定が勧告された。

人事管理について

人材の確保・育成について、地方から大都市への人口流出が続いている中で、県勢を将来的に発展させるためには優秀な若い人材を広く県内外から確保し、人材育成を進めていくことが喫緊の課題である。女性職員の登用の推進については新規採用職員に占める女性の割合が高い水準となっていることから、女性職員が職務能力を発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備に留意する必要がある。

勤務環境の整備について

メンタルヘルスについては、心の不調者の発生防止、早期発見・早期対応、円滑な職場復帰と再発防止といった各段階に応じた対策を講じることが重要な課題となっている。総実勤務時間の短縮は、公務の能率的運営を確保する観点から、また、仕事と生活の調和の実現や女性の活躍推進に向けた環境整備を図る観点からも組織全体で優先的に取り組む課題である。教育職員については、学校現場のマネジメント能力を向上させ、事務の根本的な見直しや可能な限り徹底した簡素化に取り組むなど働き方の見直しを行うことが必要である。

公務員倫理の徹底について

職員一人ひとりが、職務の内外を問わず、県民全体の奉仕者であるとの自覚と高い倫理観を持って県民の期待と信頼に応えられるよう行動する必要がある。

香教連は・・・

香教連は、香川県人事委員会の勧告を受けて、これまで行ってきた要望活動が実を結び、二年連続で月例給・期末勤勉手当が引き上げられたことは、現場の先生方の日頃のご苦労に多少なりとも報いることができ喜ばしいことである。さらに、給与水準の引上げ、多忙感の解消に向けて要望活動を行っていく。

報告を聞く参加者

勧告する桑城人事委員長

香教連新聞
香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：矢代　浩己

〒760-0004
高松市西宝町２丁目４番６０号
香川県教育会館６０２号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723
http://www.kakyoren.com/
E-mail:info@kakyoren.com

毎月10日発行　定価１部50円
（年間1,000円　送料とも）
会員の購読費は会費の中に含む

香川県教職員連盟は、結成四一年を迎えた子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

香川県第九回親守詩優秀作品発表会開催

九月一二日（土）香川県教育会館ミューズホールにおいて、「第九回香川県親守詩優秀作品発表会」を開催した。入賞者の児童生徒とその保護者、学校関係者、教文研会員、香川県モラロジー協議会会員等、約三五〇名に参加いただいた。

挨拶する浜田知事

今年度は香川県内各地域の児童生徒より、昨年度を一六一点上回る八八二五作品の応募があった。七月に香川県教育文化研究所研究員による一次審査が行われ、八月には選考委員長の七條正典・香川大学教育学部教授による二次審査を経て、優秀作品七六編（俳句・川柳の部三二編・エッセイの部四四編）が選出された。

開会行事には、浜田恵造・香川県知事をはじめ、大西秀人・高松市長、西原義一・香川県教育委員会教育長他、たくさんのご来賓にご出席いただいた。

開会行事の後、高田美孝・モラロジー研究所社会教育講師による記念講演が開催された。高田氏は、「家族の絆―感謝の心を育てる―」という演題でご講演された。

家庭において感謝することの大切さを子供たちに伝えることが家族の絆を強くする秘訣であると熱く語られた。

講演する高田氏

その後、表彰式では、最優秀作品二編と優秀作品一八編の紹介ならびに、表彰状の授与が行われた。七條選考委員長は、「家族や親子の絆の深さを豊かに描いた作品が数多く見られた。『親守詩』の活動が質的にも量的にも高まっていることに感謝したい。」と総評を述べられた。最優秀賞、優秀賞の表彰の際、教文研委員による作品の朗読が行われ、作品が紹介される度に、参加者から大きな拍手が送られた。

来年度、香川県親守詩は第十回を迎える。来年度も香川県全域から今年度を越える多くの作品の募集をお待ちしている。

表彰式の様子

エッセイの部　最優秀作品

「おとうさんのだっこ」

高松市立小学校　一年　男子

ぼくのおとうさんは、てとあしにちからがはいらないしょうがいをもっています。ぼくがうまれるとわかったときから、おとうさんはぼくをだっこするためにとれいにんぐをしたそうです。いちねんせいになったぼくでもときどきだっこしてくれます。おおきくなるぼくをいつまでだっこできるかなっておとうさんはいいながら、とれいにんぐしています。すこしぐらぐらするけど、おとうさんのだいすきなきもちがつたわってあったかいから、おとうさんのだっこがだいすきです。おとうさん、とれいにんぐをがんばってくれてありがとう。ぼくをだいすきでいてくれてありがとう。

俳句・川柳の部　最優秀作品

高松市立中学校　一年　女子

「だいじょーぶ！」
不安ふきとぶ
母の声

メトローム

日本人の活躍がめざましい。ノーベル医学・生理学賞は梶田隆章・東大宇宙線研究所所長が、昨年の物理学賞を受賞された赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏の三名に続いて二人の受賞である。お二人のノーベル賞受賞の中には、家族はもちろん、後ろで研究を続けてきた仲間に対する感謝の言葉が出てきた。一緒に研究を卒業された大学の教授、仕事を終えて、手にした油の大きさ、期末試験の時間、高校入試の夜遅くまで勉強している生徒の姿を見て、「もっと勉強したい」と思ったことが現在に至るまで語られる宇宙飛行士の野口聡一氏の受賞でもあり、日本中が沸いた。最終戦のチームの活躍に心躍らされた人も多いことであろう。これまでにつづいて詳しくできたことが印象深い。▲梶田氏は宇宙から降り注いでくる「ニュートリノ」をひたすら「観測」した。この「待ち」の作業を「至福の時」と語られる先生にならいたいものである。

▲梶田氏は自然相手の「待ち」の作業を「至福の時」と語られる先生にならいたいものである。

▲今回の受賞にいたるまでの「観測」は、世界中に「ニュートリノ」を観測し、「ニュートリノ」を観測するというこのプロジェクトに参加した大勢の人々

中国・四国ブロック会議開催

一〇月一〇日（土）一一日（日）の両日、高知県高知市の土佐御苑および高知市立城西中学校において中国・四国ブロック会議が行われた。香教連からは、矢代委員長以下六名が参加し研修を深めた。

土佐御苑での開会行事の後、全日教連・郡司隆文事務局次長より中央情勢報告が行われ、文教関係予算の概算要求について、文部科学省や財務省の考え方の報告があり、現在の教育情勢が話された。続いての講話では、「坂本龍馬に学ぶ　現代の人づくりとは」という演題で龍馬の生まれたまち記念館学芸員・森本琢磨氏が、高知県の英雄「坂本龍馬」の生き方を現代に生かすポイントを分かりやすく語られた。先を見通す力や広い視野をもつこと、精神論ではなく、経済的視点をもって行動することなどが挙げられ、子どもたちの教育につながる講話を聞くことができた。その後、中四国の先生方が各グループに分かれ、各校の現状を報告したり、課題解決に向けて話し合ったりして交流を深めた。

翌一一日は高知市立城西中学校で同校の校長　宮田龍氏による「これまでの教職人生を振り返って～決断とは～」という演題で講演が行われた。二回にわたる海外日本人学校勤務や長い管理職経験から、子供たちのために何ができるかを一番に考え、教育活動を推進していく力強さを感じる講演内容だった。宮田校長先生の熱い思いに参加者の心が引きつけられ、地域や学校、目の前の子供たちの課題を的確に把握し、先を見通して教育していくことの大切さを改めて感じることができた。

参加者の感想を以下に掲載する。

・講話では、柔軟で革新的な考え方のできる龍馬の生涯を興味深く聞くことができた。人の話を素直に聞き、自分の願いを実現するための方策を知恵と工夫をもって実践していったのだと感じた。（小学校　女性）

・講演では、子供のことを考え、一生懸命に物事にぶつかっていく情熱と高い志をもつという姿勢に感銘を受けた。（中学校　男性）

・教師として、今を大切にどう実践していくのかを考えることと、自分が手を挙げることで責任が生まれることなど、必要な力を感じることができた。（小学校　男性）

香川からの参加者

講演会の様子

第二回教問審研究部会開催

一〇月三日（土）、四日（日）の両日、日本教育文化研究所会議室において、第二回教育問題審議委員会研究部会が開催された。香川県教育文化研究所から石田小さぬき市立山崎悠教諭が参加した。

今期の研究は「アクティブ・ラーニング」を通して、「生き抜く力」の育成を図るとともに、学校教育の中でどのように位置付けていくか等を検証し、実践することである。山崎教諭は、すべての子供たちが見通しをもてるような授業づくりを目指し、自分のクラスで実践することを通して、子供たちの成長につなげていく研究を行っている。

研究部員の皆さんの研究を集約したブックレットが来年度発刊される。

研究部員との協議をする山崎教諭

「鳴門支部」定例会開催

一〇月八日（木）、鳴門市において、平成二十七年度香教連鳴門支部定例会を徳島県教職員団体連合会との合同で開催した。香教連からは鳴門教育大学院の新延貴弘教諭（三観・麻小学校）、徳教団からは九名の先生に参加していただいた。開会行事では、矢代香教連委員長が挨拶に立ち、先生方の労をねぎらった。また、来賓として阪根健二鳴門教育大学教職大学院教授にもご出席いただき、鳴教大大学院の今後の発展と、香教連と徳教団の会員同士が連携しながら研究を深めて欲しいとご助言いただいた。

参加者の自己紹介の後、それぞれの研究内容や今後の研究の方向性等について、意見交換が活発に行われた。最後に鳴門支部の先生方の研究がさらに有意義なものになることを願い、閉会した。

挨拶される阪根教授

研究内容を紹介する新延教諭

劇団四季ツアー開催！

毎年、大好評をいただいている劇団四季ツアー劇場へのツアーですが、今年は大阪劇団四季劇場にて、一〇月一〇日（土）開催されました。昨年に引き続き、ライオンキングの豪華なセットやヒオなみきらびやかなグラトキンにンンンの続きは、舌チ大グ⇒き、ラ、昨年イの